

令和5年度
杉並区立杉並第六小学校
学校経営計画

地域運営学校 Forest

学校経営の基本方針
 1 子どもにとって、楽しく、学びのある学校
 2 保護者にとって、親しみがあり安心感のもてる学校
 3 教職員が協働して活動し教育に携わる生きがいのもてる学校
 4 地域に根ざし、地域と共に成長する学校

令和5年4月1日（令和5年度）
自立と協働
 「人にやさしさ 自分につよさ」を合言葉に
しあわせを創る子どもを育成する。

教育目標 **人権尊重の精神を基調とした、知性と感性に富み心身共に健康で、生涯学び続ける心豊かな児童の育成を目指す。**

- 健康で心豊かな子
- 深く考え学び続ける子（令和5年度の重点目標）
- 進んで共に働く子

その具現化に向け
教職員は

- 明朗快活で安定した心を持ち、心身ともに健康である
- 連携に富んだ、思いやりのある、教職員集団である
- 自ら研修に励み、深く考え、工夫を重ねる

教育公務員
 地方公務員
 として

.....

コ 職 服 信 教
 ス 務 用 育
 ト 目 失 課
 惑 標 の 墜 程
 覚 達 正 行 為
 、 成 禁 止
 費 用 対 幼 果 の 意 識 と 具 現 化

杉並区教育ビジョン2022

【みんなのしあわせを創る杉並の教育】
 今後10年を見据え、生涯にわたり誰もが共に学び支え合い、明日の杉並を創り出せることを目指します。

【大切にすること】

- 学び合い、信頼をつくり、共に生きる
- ちがいを認め合い、自分らしく生きる
- 誰もが社会の創り手として生きる

【取組の視点】教育の当事者として

- ・ 子どもの思いを尊重する
- ・ ちがいを受け入れる
- ・ 対話を大切にする
- ・ 学びの成果を贈り合う
- ・ 社会を創る当事者として考える

連動連携

学校いじめ防止基本方針

◎ 学校経営の重点方針

① 教育課程 **インクルーシブな次世代の育成を目指した教育活動の推進**

カリキュラム	指導の個別化・個性化と協働学習を組み合わせた単元計画、授業計画の開発と実践。授業と家庭学習の反転学習。学校支援本部との連携に基づく外部人材・地域資源を有効活用したカリキュラム・マネジメントの推進。
校内研修	電子黒板、デジタル教科書の利活用。タブレットによる個別学習と協働学習の推進。情報モラル教育の実践。対話の質を高めるファシリテート、正確に読む・書く活動の指導力向上。読書活動の推進。言語活動の充実。
特別支援教育	「すぎろく教室」と在籍学級との連携推進。特別支援教育に関して保護者への理解推進。幼保小連携、小中連携に基づく教育支援、指導計画の活用。特別に支援を要する児童の指導方法の共有と実践。
学級・学年経営	スマイルタイムによる子どもたちの自治による学級・学年づくりの推進。児童会、委員会活動による自治の充実。QU調査のアセスメントによる学習指導、指導・支援の実践と検証。人権、道徳教育の充実。

② 幼保小・小中連携 **学区内の幼稚園・保育園との幼保小連携の取り組み、阿佐谷中学校との小中連携、杉七小学校との小小連携。**

幼保小連携	読書活動等を通じた定期的な交流活動。スタートカリキュラムの実践と検証。小学校への円滑な就学と要配慮児童への入学前対応策の検討と充実。
小小・小中連携	サミット、キャリア教育、「しあわせプロジェクト」を基軸にした小中連携。教科連携の実施を基軸にした小小連携。道徳科の3校合同研究。特別支援教育、生活指導の連携充実。プレスクールの実施。指導の連続性と系統性の充実。

③ 地域連携 **地域防災連携、地域行事、100周年プロジェクトを通じた地域市民作り**

令和5年度	学校支援本部・おやじの会・NPOサイン・同窓会による体験的活動の展開と発信及び地域人材の活用拡充。
100周年まで	学校運営協議会の地域連携強化策の試行と検証。同窓会による100周年プロジェクトの始動。

④ 個別の教育的ニーズの支援体制 **学校と保護者、地域、関係機関が連携した取り組みの推進**

教育相談体制の充実	不登校等の個別支援シートの作成、全教職員による配慮を要する児童の把握、定期校内委員会による支援方法等の検討。不登校等の対応に関して保護者への理解推進。「たんぽぽルーム」の運営と改良。専門機関・関係機関と連携。
生活指導上の課題	SSTの授業の実施。個別指導計画の作成、全教職員による配慮を要する児童を把握。SC、スーパーバイザー、スクールサポーターの助言。人事の状況による集団行動の規範低下の阻止。杉六小の学びの約束の確認と徹底。情報モラル教育等の取り組みと「家庭教育」講座等の実施。

⑤ その他

- 令和6年度の移動教室多様化を目指して、計画と実施に向けた準備。
- 子ども家庭支援センターの担当者との定期情報交換による、福祉的支援の必要な情報共有と先取り支援。
- 地域行事等への参加協力。児童・保護者の参加啓発。
- 青少年赤十字に加盟登録（日常的な挨拶、地域清掃活動等のボランティア活動、児童の主体的なアイデアによる活動等）
- 企業・NPO連携（子どもの居場所づくり、CSRを活用した体験活動の充実、放課後学習の充実、ICT機器に関する支援等）